

すべての人に
やさしい
医療・介護を



医師
尾崎治夫
東京都医師会会長

医師
羽生田俊
参議院議員 全国比例区

自民党政調会長 兼
コロナ対策本部長
下村博文
衆議院議員 東京都第11区

今こそ医師としての
使命責任を

下村博文 自民党政調会長 兼 コロナ対策本部長 尾崎治夫 東京都医師会会長 羽生田俊 参議院議員による鼎談

東京都では少し早い段階から緊急事態宣言に繋いだこともあり、高い数字ではありますが、感染者数は想定よりだいぶ抑えられています。ただ急増は避けられていますが、予断を許さない状態には

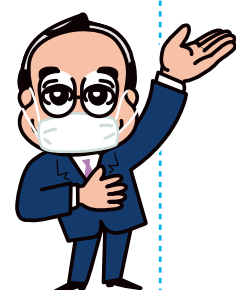
尾崎治夫
東京都医師会会長

現在も感染者数が全国的に高い状態で、特に重症者数が第3波の時に比べ大変多く、医療の危機的な状態が続いております。この状況を打破すべく、力強い発信を続けておられる東京都医師会会長の尾崎治夫先生と自民党政調会長であり自民党コロナ対策本部長の下村博文先生と鼎談を行わせていただきました。

羽生田俊

東京都と周辺の自治体との 医療体制における 連携を思索する

変わりません。



第3波の際には症状が改善しても病床移動ができませんでした。要は重症者や中等症者の症状が改善して、入院から自宅や施設といった移動がなかなかできていなかったのですが、現在は民間病院での受け入れも多くなり、約1000床の軽症者を受けける体制と老人保健施設等でのリハビリなどすぐに在宅へ移行できない方の後方支援の体制が、東京都の仕組としてしっかりしてきたことが成果をだしています。

もう一つは、在宅や自宅待機が、今までは保健所やフォローアップセンターでは電話やオンラインでのやり取りで医師の介人がなかった。そこにかかりつけ医や在宅をしている先生方、ファストドクターという往診専門の先生方とチーム

(2面につづく)



待機日数の問題、また連絡不明者の問題も対策が必要です。さらなる変異株の可能性や現在のワークチンでは防げない変異も想定されます。水際対策は重要であります。

尾崎治夫
東京都
医師会会長

昨年のスタート段階では水際対策が弱かったが、現在は対策を講じています。

羽生田俊

下村博文 自民党政調会長 兼
コロナ対策本部長

コロナ対策に今後とも尽力をお願い致します。ありがとうございます。

羽生田俊

下村博文 自民党政調会長 兼
コロナ対策本部長

あらためて水際対策の強化、取り組みを考えていきます。



「こども庁」創設 に向け加速



参議院議員／医師
自見 はなこ

いつも大変お世話になっております。前回ご紹介させて頂いた「こども庁」設立に向けた取り組みが、大きく進展しました。発起人を務める「Children Firstの子ども行政のあり方勉強会」の第一次提言により、4月13日に自民党内に総裁直属の検討機関「『こども・若者』輝く未来創造本部」が立ち上がりました。「Children Firstの子ども行政のあり方勉強会」としても議論を重ね、web登録をした地方議会議員132名への意見・要望アンケート調査も行い、5月28日の第18回勉強会で第二次提言の取りまとめを行いました。第二次提言では、こども庁に必要な機能として、徹底した現状分析、課題設定、解決策設定、実施、評価のプロセスをPDCAサイクルで実施し、国の縦割り府省庁と子どもが居る現場である市区町村・都道府県を繋げるプラットフォームとして、愛育機能(すくすく)、育成機能(のびのび)、成育機能(自分らしく周囲とともにたくましく)

を果たしていくことを掲げています(勉強会の内容と提言全文は、こども庁特設サイトをご覧ください)。5月31日には、「『こども・若者』輝く未来創造本部」で、われわれの勉強会の第二次提言を発表させて頂き、それを踏まえた自民党としての政府への決議文も6月3日に取りまとめとなりました。7月以降には、政府の中に加藤勝信内閣官房長官をトップとする「こども庁」創設に向けた検討チームが設置される運びとなりました。さらに、来年度予算の編成の基本方針である「骨太の方針」の原案にも、「(子どもに関する様々な課題に総合的に対応する) 機能を有する行政組織を創設するため、早急に検討に着手する」と盛り込まれました。今回は、「こども庁」の目指す姿等についてお話しさせていただきます。

こども庁特設サイト▶



【羽生田たかし国会事務所】
〒100-8962
東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館319号室
TEL:03-6550-0319
FAX:03-6551-0319

【羽生田たかし群馬事務所】
〒371-0022
群馬県前橋市千代田町2-10-13
TEL:027-289-8680
FAX:027-289-8681

羽生田たかしオフィシャルサイト▶
<https://www.hanyuda-t.jp/>
f 羽生田たかし 検索
公式アカウント▶@hanyuda_takashi
メール▶mail@takashi-hanyuda.com

WEB通信配信
アドレス登録は
こちらから



オフィシャルサイト



時節柄感染予防対策のため、マスクを着用したまま撮影を行いました。

下村博文 自民党政調会長兼 コロナ対策本部長

有事の際の対応を平時に整えておくという観点で、国にありませんでした。それが今の問題です。

今後は有事対応のときに医

この機会に伺いたいのですが、国のやっていることに対してご意見があればと思います。まず地域連携ですが、いまお話

下村博文 自民党政調会長兼 コロナ対策本部長

を組んで24時間見守る体制を作りました。自宅待機中の不安や容態の変化に対応する医療が受けられる体制になったと思います。



自民党政調会長兼 コロナ対策本部長 下村博文

衆議院議員 東京都第11区

【プロフィール】

【衆議院】
国家基本政策委員会 委員
【自由民主党】
政務調査会 会長
新型コロナウイルス感染症対策本部長
経済成長戦略本部長
財政再建推進本部長
デジタル社会推進本部長
新国際秩序創造戦略本部長

ですが、重症から中等症になっても病床移動ができず重症病床が空かず医療が逼迫していた部分がありました。うまくローテーションが医療連携で回れば、相当医療逼迫を防ぐことができます。東京都は成功例ではありますが、自治体によってはなかなか連携がうまくいかない場合もあります。それは周辺の自治体とも協力して連携をしなければならぬと感じていますが、例えば厚労省が自治体にもっと関与するべきところや、国が率先していくべきといったご意見がありますか。

療病床をどうするのか、仮設病床を作ったとして、そのスタッフをどうするのかといった問題を考える必要があると思います。

また、いま国民が一番関心をもっているのはワクチン接種です。日本は非常に遅れていま

尾崎治夫 東京都医師会会長

これまでも地域包括ケアシステムを作ってきました。その中で東京都は慢性期の病院などが少なく急性期が充実しています。一方で埼玉県、千葉県、神奈川県の一部からは東京都に急性期やがん診療なども含め入ってきていますが、救急を終えてリハビリに移ると都心では病院が足りない状態です。23区外や千葉県、埼玉県などへ移動されて、自然と都と周辺県は連携していました。まったく知らない間柄ではないとしても、もともと頃から医師会同士をはじめ地域同士が連携しながら体制を構築することが望ましいと考えます。

下村博文 自民党政調会長兼 コロナ対策本部長

今後感染者が急増した場合の受け入れを想定する時に、実際に仮設の臨時病院を作りましたが、医療スタッフや従事者が集まらなく、結果フルに活用できなかったことがあります。だが、どのような対応策が考えられますか。

尾崎治夫 東京都医師会会長

どこまでかは予測の問題ですが、東京都では都立・公社病院をコロナ専門病院として広尾、豊島、荏原病院を中心にその他の後方支援病院も含め対策連携に取り組んできました。東京でもお台場に臨時病院を建ててとの話がありましたが、スタッフがいなく孤立した病床を何百作ってもなかなか機能することは難しいと思います。周辺や他県からスタッフを集めても医療連携で首都圏と地域が連動しているの、そちらの医療体制が逼迫します。結局は感染者数を抑えないとやっていけない状態になります。

日本はこれまで主として高齢社会の病



を終えると回答しています。集団接種のキャパをどんどん増やすというのは現実的ではないので、やはり個別接種を増やしていく、それには我々医師会が頑張らなければなりません。これから夏場になり、暑くなり、集団接種の会

場はエアコンが効いていても、高齢者の熱中症のリスクはやはり高いと思います。予診でもまったく知らない方であれば服用している薬から病歴の確認など時間がかかります。やはり高齢者にはかかりつけ医での接種を増やすのが、接種後の関わりを考えると良いと思います。逆に若い方、元氣な方には集団接種でどんどん接種してもらうのが良いと思います。

(4面につづく)

【プロフィール】
公益社団法人 東京都医師会 会長
公益社団法人 日本医師会 理事
医療法人社団順朋会 おどぎ内科循環器科クリニック 院長
順天堂大学医学部循環器内科非常勤講師



東京都医師会会長 尾崎治夫

医師

東京都は62区市町村があり、42箇所は7月までに高齢者接種

尾崎治夫 東京都医師会会長

ですが、何とか供給量は確保でき、あとはいかに接種できるか、総理が接種事業に全力をあげています。これは自治体や医師会にとつても大変な事業ではあります。今回ワクチンは届くので、接種スピードをあげていく上で何が課題はありますか。

医療提供体制を整えてきました。医療の役割を分割した体制を国が主導してきましたが、とてもパンデミックや今回の感染症を想定する体制はとれていませんでした。効率化、財政論に押されるのではなく、少し余裕を持った体制を持たなければ、有事に対応する余力がないと感じています。

【プロフィール】
【参議院】
厚生労働委員会 委員長
東日本大震災復興特別委員会 理事
【自由民主党】
自民党 副幹事長
医師の働き方改革PT 座長
厚生労働部会 部会長代理
社会保障制度調査会 幹事



参議院議員 全国比例区 羽生田俊

医師